

長久保赤水顕彰会長

## 佐川 春久

高萩市出身の江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の功績を伝える長久保赤水顕彰会は、1992（平成4）

年11月6日（赤水生誕275年）に設立総会（当初会員121人）を開催して、

今までさまざまな活動を続けてきた。おかげさまで2020（令和2）年9月30日に、赤水関係資料693点が国の重要文化財に指定された。今年9月末現在、会員は北海道から沖縄県まで787人と急増した。

国の重要文化財指定を受け、令和3年度から帝国書院の教科書「中学校社会科地図」に「伊能図」と並んで赤水と、赤水の改正日本輿地路程全図（通称「赤水図」）が掲載。学研の参考書「学研ニューコース中学歴史」にも、赤水の「赤水

図」と「世界地図」が掲載。さらに令和4年度からは二宮書店の高等学校教科書「基本地図帳」に赤水の「世界地図」がマテオ・リッチ

の「世界地図」とともに掲載された。ぜひ、この機会に多くの皆さま方に世界に名を残し

ている偉大な赤水の業績を知っていただきたいと考えている。そのためにも全国小学校・中学校・高等学校での地理教育教材として、ぜひ、この「赤水図」を活用して楽しく学んでほしいと思っている。

そんな中で8、9月、高萩市内の中学校3校において「赤水図」と現代の地図を使った大学教授による初めでの読図出張授業が開催された。

その作業後、生徒たちは「山や川などにも注目して場所を探るのが面白かった。これだけの仕事をした人がかつて高萩にいたのだと知り、誇らしかった」細かい部分まで分かって、製作に命を懸けて頑張っていたことが伝わった。「江戸時代にここまで正確な地図

## 「赤水図」の教材活用を

勝彦教授である。4月の総会で同学会の中に長久保赤水図専門部会が設置され、責任者にも就任されている。

会場には「赤水図」の5倍拡大タペストリー（縦4・2メートル、横6・4メートル）を配置し、現在の地図などの資料を使って読図を開始。

現代の都府県庁所在地を「赤水図」の中で探し出した。

制作した偉人がいたことにかい部分まで分かって、製作に命を懸けて頑張っていたことが伝わった。「江戸時代にここまで正確な地図

比べるのがハザードマップ等

の地図を見る訓練になる。古地図を地理教育に利用することを目指し、全国に広げたい」と語り、さらに「児童・生徒の発達段階に応じ現在の地図と比較しながら、当時の歴史を学ぶ教材として、今回の学習指導要領の改訂に伴う、地理探求や地理総合の授業などの教材に最適である。令和の時代に赤水図を読み解く授業にしていきたい」とも言われた。

授業の講師を務めたのは、日本地図学会常任委員

の山本浩一氏。山本氏は「山や川などにも注目して場所を探るのが面白かった。これだけの仕事をした人がかつて高萩にいたのだと知り、誇らしかった」

細かい部分まで分かって、製作に命を懸けて頑張っていたことが伝わった。「江戸時代にここまで正確な地図

比べるのがハザードマップ等

の地図を見る訓練になる。古地図を地理教育に利用することを目指し、全国に広げたい」と語り、さらに「児童・生徒の発達段階に応じ現在の地図と比較しながら、当時の歴史を学ぶ教材として、今回の学習指導要領の改訂に伴う、地理探求や地理総合の授業などの教材に最適である。令和の時代に赤水図を読み解く授業にしていきたい」とも言われた。

テレビ報道を見た県教育庁高等学校の担当者からも「赤水図に興味がある」と言われた。11月27日午後1時から、高萩市文化会館で報告会の開催を予定している。



5倍拡大タペストリー「赤水図」の中で赤水が描いた日本の河川をたどった生徒たち＝高萩市立高萩中